

中山地区公民館だより

なかやまタイムス 2019年8月号

中山地区公民館
伊予市中山町出瀬2-138-1
TEL 967-1111
FAX 967-1101
中山町(6月末現在)
人口 2,897人(-10)
男性 1,377人(-5)
女性 1,520人(-5)
世帯数 1,328戸(+1)

なかやま夏まつり 梅雨空を吹き飛ばし賑わう

7月19日、20日「なかやま夏まつり」が梅雨空の中、開催されました。

町内6か所に展示された「造り物」は、力作ぞろいで訪れた人々を魅了していました。「中山音頭サンバ踊り」は、14連・総勢463人の踊り子が元気いっぱい町内を練り歩き梅雨空を吹き飛ばす勢いで盛り上げていました。サンバ踊りの優秀賞は、中山中白鷹ブロック連、中山小学校子ども連、努力賞は、双海中山商工会連、文化協会連が受賞しました。



市長賞 豊岡1区



議長賞 さげもん倶楽部



観光協会賞 泉精米所



優秀賞 中山中白鷹連



優秀賞 中山小学校子ども連

努力賞 双海中山商工会連



努力賞 文化協会連



8月の行事予定

1	木	
2	金	
3	土	
4	日	
5	月	
6	火	
7	水	わんぱく塾移動体験学習(新居浜)
8	木	
9	金	
10	土	
11	日	山の日
12	月	振替休日
13	火	
14	水	
15	木	永木盆踊り大会
16	金	なかやま盆踊り大会
17	土	
18	日	野中盆踊り大会
19	月	
20	火	
21	水	佐礼谷納涼のタベノ永木山四国巡拝
22	木	
23	金	
24	土	
25	日	永木支館スポーツ大会
26	月	
27	火	
28	水	
29	木	
30	金	
31	土	

～中山町のむかしばなし～

第9回 山吹御前の史話 (義仲討ち死から山吹御前故郷へ)

寿永3年(1184年)の頃、当時朝日将軍とも言われ勇猛果敢な木曾義仲だったが、源氏の一族である頼朝の弟の範頼や義経に追われ、近江の国の栗津ヶ原で戦いに負けて討ち死にした。山吹御前は、当時伊予の国が義仲の領国であったことから、京都をのがれ出て難波より舟に乗り伊予の国へ来たが、すでにまわりはことごとく頼朝方となっており、言いよることかなわず、ひそかに現在の双海町上灘の海岸へ上陸したが、山吹御前は海上の長旅ゆえに疲れ重なり病に倒れ、はかなく死亡した。家来たちは、その亡骸を人知れぬ所へ隠し収めんと笹竹に乗せ、山坂を曳き上がったところを曳き坂(翠小学校の北川向から上り口)、登り切った所(高見)を一夜の宿となった築楯(ついたて)といい、ここを通過し、佐礼谷日浦地区の「衣替えの地」で死に装束に着替えて、やっと、山吹地区に辿りつき葬られたといわれている。その後、現在も地元の人達によって手厚く祀られている。(中山史談会)

秦皇山句会作品集

代表 西尾芳子

合図して曾孫の踊るサンバかな
巖

紫陽花の盛りとなりぬ札所寺
いてん

軋ませて開く水門花くわみ
のぶい

声あらば聞いてもみたし蟻の列
ひでこ

空蟬の重なり合ひて木の裏に
やすこ

釣り好きの甥の旅立ち梅雨晴間
あきこ

我れ病みて夫の作りし冷麦麴
みつる

見舞来る孫の笑顔やさくらんぼ
かつこ

凌霄花幼馴染とランチかな
はるこ

形代に父母に貰ひし名を太く
芳子

佐礼谷小学校 俳句教室

指導 西尾 芳子 先生

あめんぼう みずのうえでも うんどうかい
一年 福岡 紬(日浦)

ほたるとぶ ほうせきみたい きれいだな
一年 横山 沙妃(源氏)

おとうとと いっしょにだべる かきごおり
二年 上見 優斗(竹之内)

なつの山 みどりにつつまれ きれいだな
二年 北岡 杏奈(源氏)

野球中 汗がぼとぼと たおれそう
三年 福岡 絆(日浦)

川あそび かににはさまれ いたたた
三年 水本 幸来(日浦)

雨上がり かえるがジャンプ たかだかと
三年 宮本 禮玄(村中)

雨上がり 空見上げると 虹の橋
四年 逢沢 紀乃(坪之内)

夏の山 緑の顔で こんには
四年 北岡 姫奈(源氏)

かっこうと 鳴いているよ さみしそつ
四年 松岡 真心(犬寄)

黒い雲 梅雨のおとずれ 感じるな
六年 亀田 隼人(安別当)

えさを待ち 巢からだっそつ つばめの子
六年 二宮 莉夢(竹之内)